

インタビュー

努力 働きながら夢にまい進！ 努力すれば道は開ける！

今季から、なでしこリーグ2部に参戦するセレッソ大阪堺レディース。ゴールキーパーとして活躍する福永絵梨香選手は、チームで初めて、選手でありながらサッカーのスクールコーチとして働く「第1号」として活躍中です。幼い頃から憧れだったサッカー選手の夢を叶え、さらなる飛躍に向けて、日々ピッチで汗を流しています。サッカーを始めたきっかけや、仕事とサッカー選手としての夢を両立させようと決めた理由を訊きました。



「セレッソ大阪堺レディース」

福永 絵梨香選手

プロフィール

福永絵梨香(ふくなが えりか)

1997年生まれ、大阪府出身。ポジションはゴールキーパー。小学1年生から中学3年生まで高槻FCに所属。高校1年生からセレッソ大阪堺レディースに入団し、現在に至る。2013年、U-16日本代表コスタリカ遠征メンバーに選出。

セレッソ大阪堺レディース

<http://www.cerezo-sportsclub.or.jp/academy/>
セレッソ大阪レディースU-15として活動をスタート。2013年に「セレッソ大阪堺レディース」と改称し、チャレンジリーグに初参戦。2015年のチャレンジリーグプレーオフを勝ち抜き、2016年からなでしこリーグ2部に参戦。アカデミーから育てる「育成型クラブ」を掲げ、「世界基準によるサッカー選手の育成」という指導方針のもと、世界で活躍できる女子サッカー選手を育てることを目標に活動する。

物心ついた頃からサッカーひと筋

サッカーを始めたのは6歳上の兄の影響です。兄が高槻FCに所属していて、週末は家族で兄の応援に行くのが日課でした。物心ついた頃から、サッカーボールを追いかけて走り回っていたのを覚えています。ある日、兄と近所の公園でボールを蹴って遊んでいた時に、父から「お兄ちゃんよりうまいんちゃうか？」と褒められたのがすごくうれしくて、小学1年の頃に兄と同じ高槻FCに入団。ゴールキーパーのポジションは小学6年生からです。チームで女子は私ひとりでしたが、高槻FCの樋口祖照(そてる)監督は「ピッチに立てば、男子も女子も年齢も関係ない」という方で、この言葉は今でも励みになっています。

セレッソ大阪堺レディースに所属したのは高校1年生から。当時の中村貴史監督から声をかけていただきました。ずっと男子の中でプレーしてきたので、女子チームとはどういうものか分らなかったのですが、なでしこリーグで155試合出場の記録を持つ、轟奈都子さんがゴールキーパーコーチをされているのが入団の決め手となりました。

高校3年生になり、進路を決める時も私はサッカーをすることしか思いつきませんでした。漠然と大学や専門学校に進学して選手を続けるより、大好きなサッカーに1日中かかわれる仕事があった。仕事とサッカーを両立することに、迷いはありませんでした。



(C)CEREZO OSAKA SPORTS CLUB

働きながら選手を続けるという道

サッカーのスクールコーチとして働き始めてまだ3カ月ですが、毎日とても充実しています。大阪や和歌山の幼稚園や小学校などを巡回し、子どもたちにサッカーの楽しさや夢について授業をするのが仕事です。これまで教わる側だったのが初めて自分が教える立場になり、どうすればうまく教えられるのか、模索する毎日です。行き詰まった時は、一緒に巡回する先輩に相談したり、アドバイスをいただきます。先輩はJリーグやなでしこリーグで活躍し、引退してコーチをしている、すばらしいキャリアの方々ばかりなので、学ばせていた



(C)CEREZO OSAKA SPORTS CLUB

だくことが多いです。また、夢中でボールを追いかける子どもたちの笑顔を見ると「私もがんばろう」と励まされますね。午前中はスクールで、午後からはクラブハウスでスクールの事務作業をしたり、Jリーグが提携する通信制大学の勉強をして、チームの練習は夕方から。毎週土・日曜はリーグの試合なので、やはり練習には力が入ります。

社会人になり、自分が成長できたと思うのは責任感です。私たちの世代はセレッソ大阪堺レディースのいちばん上にあたるのですが、同い年のチームメイトは進学して選手を続ける道を選び、働きながら選手を続ける道を選んだのは私ひとり。働きながら選手を続ける「第1号」なので、お手本になる先輩がいません。正直不安はありましたが、毎日が充実しているのでこの道を選んでよかったと心から思えます。あとに続く後輩に、こんな選択もあるんだと示すためにも道を切り開いていきたいです。

女子サッカーの競技人口を増やす

なでしこリーグはアマチュアのため、仕事と選手を両立させている方が多いのが現状です。Jリーグのようにプロ化して、選手がサッカーだけで生きていけるのが理想ですし、そうなってほしいです。今は、私ができることをひとつずつやっていくことが大切だと考えています。まずは日々の巡回でサッカーの楽しさや喜びを、ひとりでも多くの子どもたちに伝え、女子サッカーの競技人口を増やすこと。関西は中学生の女子サッカーチームが少なく、私のように



(C)CEREZO OSAKA SPORTS CLUB

男の子に混じって練習してきた子がほとんどです。中学校の部活でも女子サッカー部がないため、たとえ才能があっても中学に進学した時点で行き場をなくしてサッカーを辞めてしまう子が多いのが残念です。サッカーの才能に溢れる女の子たちの受け皿がもっと増えてほしいし、セレッソのような女子チームが増えてほしいとも思っています。女子サッカーはまだまだこれから。私たち今の女子サッカー選手全体のレベルアップも必要だと思います。

一生、サッカーに関わっていきたい

私は選手としてまだまだですが、憧れはセレッソ大阪のゴールキーパー、キム・ジンヒョン選手です。広い守備範囲と攻撃サッカーができるところ、そしてたくさんの方から愛されるお人柄で、選手として人として尊敬しています。憧れの選手のプレーをすぐそばで見られたり、直接アドバイスをいただけたりするの、他のチームではなかなかできないことなので、本当に恵まれていると思います。

今後の目標は、まず2020年の東京オリンピックに出場すること。そして将来結婚しても、もちろんサッカーは続けていくつもりです。現役引退後もゴールキーパーコーチになって、ずっとサッカーにかかわっていきたいです。もし仕事と夢の両立を迷っている方がいるなら、やらずに後悔するよりも、ぜひ挑戦したほうがいいと思います。努力すれば成長するし、道は開けると信じています。昨日より今日を意識して一緒にがんばっていきましょう！